

おうみ

# 「新しい淡海文化の創造」に向けて

The Creation of a New Omi Culture

宿 谷 祐 弘\*

Sukehiro SHUKUTANI\*

## ABSTRACT:

In a broad sense, it can be said that Shiga Prefecture has two faces.

The first face is the "inland industrio-commercial face", and the second face is "environmentally advanced face."

To shape local society with the harmony of these two faces, and to create a model of sustainable development, "the Creation of a New Omi Culture" is advocated as a fundamental precept for the promotion of the prefectural administration.

Based on the promise that human beings and nature live in harmony, "The Creation of a New Omi Culture" aims for a state where people can build fruitful lives and pass it on to future generations through people's effort to learn from the natural, historical and cultural features of Shiga, and to interact with and support each other. This plan also serves to encourage a variety of exchanges with many people elsewhere by proclaiming the values existing in "The Creation of a New Omi Culture," which will reflect Shiga's identity and opinion.

## KEYWORDS : SUSTAINABLE DEVELOPMENT

### 1. はじめに

戦後の高度経済成長期は、滋賀を全国でも有数の内陸工業県に押し上げ、生活に経済的な豊かさをもたらし、かつてない人口増加にもつながった。しかし、同時に、琵琶湖の水に異変が生じはじめ、また伝統的な固有の文化も希薄になる道をたどった。全国一律の均質化された物質的な豊かさと引き換えに、知らず知らず失ったものも少なくなかった。そして、外に目を転じれば、世界では、地球規模の環境問題が切実なものとなり、飢餓や戦乱も跡を絶たない。我が国でも、多くの人々が、本当の豊かさとは何かを問いかけ、地球市民として、豊かな心をもって生きることの必要性を強く感じはじめるようになった。

滋賀の地は、地理的にはあたかも一個の「小宇宙」というべき盆地としてのまとまりのなかにあり、その中心に人々の営みを映し出す「鏡」としての琵琶湖がある。このまとまりのなかで、私たちは、物の豊かさを得た反面、琵琶湖の水質悪化という重大な課題に突き当たり、たゆまぬ水質改善の努力を続けてきた。いま、その同じ場所で、この努力をさらに大きな理想と覚悟につなげ、新しいライフスタイルを築き、示していきたいと思う。

---

\*淡海文化推進室長

Director Omi Culture Promotion Division Shiga  
Prefectural Government

この滋賀の地には、自然に畏敬の念を払いつつ、自然と共に生き、また、恵まれた街道性の中で培った優れた気風を身につけた先人たちの、「淡海文化」とも呼ぶべき、知恵や心がある。この地に生きる者が、先人から受け継いだこれらの伝統に学び、新しい価値を生み出しながら、暮らしや生産活動などを見つめ直し、より住みやすく活力に満ちた生活環境を整えて、次の世代に贈る。こうして「持続可能な節度ある発展」のモデルを創り上げることができれば、その成果はひとりこの滋賀にとどまらず、日本に、世界に、少なからず貢献することになるであろう。これは、きわめて滋賀らしい取り組みである。

滋賀では、「新しい淡海文化の創造」を、滋賀の志、県政展開の基本理念と位置付け、その推進の指針として「新しい淡海文化の創造に向けた県行政推進の基本方針」を定め、それをよりどころとして、それぞれの政策、施策、事業をいま一度見つめ直すとともに、広く県民の理解と共感を得ながら、足らざるところを補い、優れたところをさらに伸ばし、滋賀の個性を発揮する新たな取り組みを進めていくこととしている。

## 2. 県行政推進の基本方針

「新しい淡海文化の創造」は、自然とひととの共生を基本におき、風土と歴史に学び、この地に生きるものが互いに高めあい支えあって、心豊かな暮らしを築き、将来の世代により確かな滋賀を引き継いでいくことであり、またその過程を、滋賀の主張、滋賀の個性として発信し、さまざまな人々との交流を図るものである。このため、取り組みの大きな方向づけとして、「自然との共生」、「風土と歴史」、「人とひと」、「発信」の4項目を定めた。

### (1) 自然との共生を常に意識し、環境滋賀へのこだわりをあらわす

滋賀は、琵琶湖の水質問題を中心に環境に関して多大な努力を重ね、環境先進県といわれるようになってきた。しかし、さまざまな活動に伴って発生する課題の解消を他の地域や次の世代に委ねることなく、この地をより望ましい姿で次の世代に引き継いでいくためには、琵琶湖や自然にこれ以上負荷をかけないように、暮らしや生産活動の中で、さらに踏み込んだ取り組みを展開しなければならない。この琵琶湖や自然を守ることとは、とりもなおさず地球環境への眼をひらき、その成果をもって世界に貢献することでもある。誰もが、「人間は地球上の一員であり、自然生態系の中で生かされている」という意識を持ち、環境へのこだわりを生産、流通、消費、廃棄といったあらゆる場面で心がけ、自然を大切にする気持ちから万物の命をいっくしむ共生の心が育まれるよう、日々の暮らしぶりや行動で実践していく取り組みを進める。

### (2) 風土と歴史に光をあて、滋賀の個性に磨きをかける

滋賀には、独自の、気風、風物、文化財、伝統工芸、食文化、伝承など、いまの時代はもとより、未来に向けて活かすことができる有形無形の地域資源、歴史資産が数多くある。地域文化の原点は、その地域の自然的・社会的条件と結びついた風土と歴史である。その意味を探究し、しっかりと心に刻みこんでいくとともに、心豊かな生活をめざし、時代の要請にそった新しさを加えながら、すぐれた地域文化として継承し、世界に通用する県民の財産として高めていくことが必要である。そして、文化の基盤となる地域の活力を引き続き維持し、向上させていく努力が求められている。人々が、地域への愛着を持ち、先人の気風を暮らしぶりに反映させ、地域資源、歴史資産を活かし、個性ある地域づくりの取り組みを進める。

### (3) 人とひととの関係を豊かにし、一人ひとりの輝きが増す滋賀をつくる

滋賀は、穏やかな自然に育まれた人情こまやかな風土の中で、お互いに顔が見える距離で暮らし、人とひととの関係を大切に、地域を全員で育む意識が引き継がれてきたが、経済社会の変化などに伴いこうした共同体意識がうすれてきている。一方、転入人口の増加、個人の自己実現欲求の高まりなどに伴い、多様な価

価値観や活力が生まれてきたが、まだ地域に十分活かされているとはいえない。連綿と培われてきた連帯意識の高さと多様な価値観を、地域の一層のまとまりと活力につなげる新たな土壌を形成していくために、お互いの命をいつくしむ共生の心をもとに、さまざまな個性や価値観が尊重され、一人ひとりが感性を磨き自己を高める条件を整えていきたい。そして、個人が社会に積極的にかかわって、お互いの力を活かし共に支えあい、誰もが住みやすくいきいきと暮らすことができ、住んでよかったと思えるような生活環境を整えていく取り組みを進める。

#### (4) 滋賀の価値と魅力を見いだし、そのすばらしさを世界に発信する

滋賀には、琵琶湖を中心とする美しい自然や、人々の営みに育まれた豊かな地域文化、さらには琵琶湖の環境保全活動をはじめとする数々のすぐれた取り組みがある。しかし、いままでは、このようなすばらしい文化や活動を、情報として他に伝えることが十分ではなかった。情報を発信することで、外からの声が聞こえ自らの位置も知ることができ、また他の人々の感動や共感を呼び、さらに自らの自覚と誇りを高めていくことができる。お互いに情報を共有し、「ハレ」意識を呼び起こし、表現力を磨き、あらゆる機会を通じて、滋賀の価値と魅力を発信するための取り組みを進める。

### 3. 取り組みの推進にあたって

県は、行政を押し進めていく立場から、この基本方針にそって、今後、政策の形成、施策や事業の展開などに精一杯の努力を重ねていく。しかし、主役は県民である。「新しい淡海文化の創造」は、この地に生きるすべての人々とその暮らしぶりにかかわることから、一人ひとりの県民や、グループ、団体、企業、さらには、県民にとって身近な生活の場であり地域の行政に携わる市町村などが、滋賀の志を共有し、互いの協力のもとで、それぞれの取り組みを進めていくことが不可欠である。

行政は、自らの責任として、将来を見定めた施策展開を図るとともに、主役である県民が活躍できるステージづくりをしっかりと担うという姿勢をもって取り組むべきである。滋賀には、すでに、「新しい淡海文化の創造」につながる取り組みを進めている人々が大勢いる。これらの人々の思いや知恵が活かされ、より大きな地域のエネルギーとなるよう、主役である県民と県行政のよりよいパートナーシップを築くことも、大切な視点である。

「新しい淡海文化の創造」の取り組みを息長く重ねていくことで、未来に価値ある地域社会が形づくられていく。子孫が誇りをもってこの地で活躍しつづけるよう、いまを生きる者として、未来を拓く一步を踏み出したい。